



YASKAWA

株主のみなさまへ

第86回事業報告書

平成13年3月21日～平成14年3月20日



機械と人間の共生へ - Quality & Beauty

株式会社 安川電機



株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

当期の業績について、概要をご報告申し上げます。

当期におけるわが国経済は、情報技術（IT）関連需要の世界的な低迷および米国同時多発テロにより米国経済が一段と減速した影響を受け、輸出や国内の個人消費・民間設備投資が減退し、非常に厳しい状況が続きました。

このような経済環境のもと、当社は、中期経営計画“Win21”に基づく4つの構造改革を着実に進めてまいりました。

まず、事業構造改革については、平成13年3月21日付の安川プラントエンジニアリング株式会社の吸収合併をもって、当初狙いとした主要な項目につきほぼ完了いたしました。

企業構造改革については、効率的な運営体制を整えるべく、モーションコントロール、システムエンジニアリングの2つのSBU（戦略的事業単位）の再編強化に加え、ロボット事業と超メカトロ事業を統合したロボティクスオートメーションSBUを構築いたしました。さらに、中核事業分野であるモーションコントロール事業の一層の強化を狙いとしてソリューションセンタを設置し、お客様の視点で考え、課題を共有し、解決策をご提案、実証するための諸機能も整備いたしました。

経営構造の改革については、従業員のモチベーション（動機付け）を高めるため、成果主義に基づいた新人事制度を管理職から一般従業員にも拡大し、関係会社に対しても業績評価制度を導入いたしました。

財務構造の改善については、抜本的な生産性向上を目指して中国・アジア地区での現地生産に着手し、需要の変動に速やかに対応できる体制を整備してまいりました。また、ERP（統合業務システム）およびSCM（サプライチェーン・マネジメントシステム）の導入により、リードタイムの短縮および棚卸資産の削減を進めるとともに、遊休資産の売却により資産の圧縮につとめました。さらには、拠点・機能の統合を進め、効率的な運営をはかりました。

以上のように“Win21”に基づく諸施策を強力に推進してまいりましたが、当期の業績は、厳しい経営環境下、中核事業分野であるモーションコントロール事業分野の落ち込みが大きく、受注高は前期比30.4%減の1,099億33百万円、売上高も前期比28.6%減の1,134億74百万円となりました。

損益面でも、諸経費の節減に努めましたが、売上高の大幅な減少の影響を受けて、経常損失が58億43百万円、当期損失は

保有株式の評価損の計上など特別損失の拡大もあり103億23百万円となりました。

この結果、配当金につきましては、誠に遺憾ながら無配とさせていただきます。何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。

今後の見通しにつきましては、一部には明るい兆しが見えてきているものの、景気は依然として低迷が続き、厳しい経営環境で推移するものと考えております。

このような状況下、当社およびグループ各社は、2002年度(平成14年度)を“Win21”の仕上げの年として、4つの構造改革を迅速かつ効果的に実行し、高収益企業体質へと転換していく所存であります。

具体的には以下の諸施策を進めてまいります。

事業構造改革では、既に実施した諸施策の成果を確実なものにしてまいります。

企業構造改革としては、3つのSBUでの一層効率的な事業運営を行ってまいります。

モーションコントロールSBUでは、新しく設立したソリューションセンタの諸機能を最大限に活用して、お客様の新しいニーズを的確に把握しご満足いただけるソリューションをスピーディに提供してまいります。

ロボティクスオートメーションSBUでは、ロボット事業と超メカトロ事業の統合による相乗効果を最大限に活かすべく、半導体製造装置向け製品の標準化を進めるとともに、機動的かつ効率的な販売・製品開発・生産およびサービス体制を構築し、新規市場の開拓に努めてまいります。

システムエンジニアリングSBUでは、当社のインバータや高効率モータの省エネルギー技術および環境浄化技術を活かして、お客様の環境対応ニーズに適合した製品・サービスの拡販に努めてまいります。

また、総合的視野での戦略立案体制の強化を狙いとしてコーポレートスタッフを再編したほか、SBUを側面から支援するサポートセンタとしての機能を集約化し、将来的には各SBUの分社化を睨んだ体制作りを進めてまいります。

経営構造改革としては、成果主義に基づく人事制度の定着を図るとともに、品質レベルを高めることにより、CS(お客様満足度)向上を基軸にした経営を、グループ全体にまで広げて推進してまいります。

財務構造の改善では、抜本的コスト構造改革を最大の課題として取り組んでまいります。とりわけ、新たに設置した調達部による全社集中購買、調達先の絞り込みによる調達コストの削減や、海外生産・委託生産を一層拡大することによる生産コストの改善、棚卸資産の削減や間接業務の効率化による固定費の削減を実施してまいります。

以上の諸施策の実施により、激変する経営環境にも耐えられる構造へと転換してまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後ともなお一層のご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

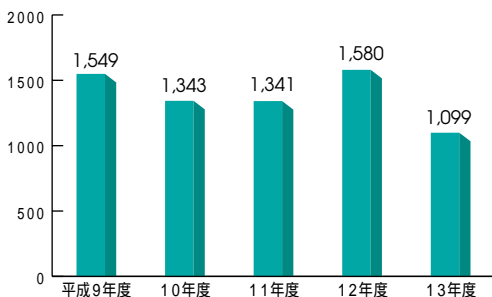
平成14年6月

取締役社長



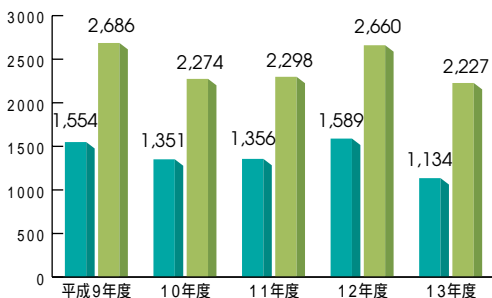
受注高 (単位：億円)

■ 単独



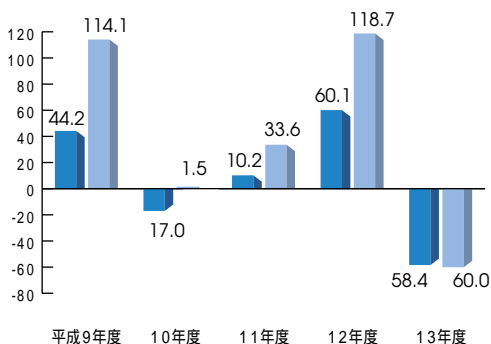
売上高 (単位：億円)

■ 単独 ■ 連結



経常利益 (単位：億円)

■ 単独 ■ 連結



(注) 当期から部門別区分の見直しを行い、SBU(戦略的事業単位)での事業運営開始に合わせ、従来の「メカトロ機器」を母体とした「モーションコントロール」、「メカトロシステム」を母体とした「ロボティクスオートメーション」、「産電機器」および「産電システム」を母体とした「システムエンジニアリング」へ分類を変更いたしました。

当部門では、主力のACサーボが、世界的な景気後退の中、主要顧客である半導体関連業界および工作機械業界からの需要が減退し、大幅に落ち込みました。

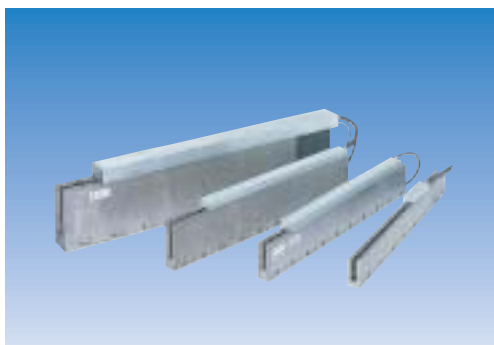
また、一般産業用向けの汎用インバータは、上半期は堅調に推移いたしましたが、後半に至り減少に転じました。

その結果、部門全体では、受注高は前期比44.0%減の414億33百万円、売上高も前期比44.4%減の424億37百万円となりました。

機械を直接駆動したいというニーズにお応えして、扁平・中空構造の「ダイレクトドライブ シリーズ」を商品化しました。減速機構を必要としないため、ガタやバックラッシュによる位置決め精度の低下や騒音、メンテナンス問題をすべて解消できます。この製品によって、サーボの新たな顧客獲得を図ります。



当社は、1999年にリニアサーボモータを市場投入して以来、24機種を製品化しています。今回「コアレス形Linearシリーズ」の小推力2機種、大推力3機種を新たに商品化。日本一の品ぞろえを確保したことにより、今まで対応できなかった用途への拡販を強化します。



当部門では、自動車関連用途等の溶接ロボットおよび液晶製造装置用クリーンロボットが引き続き高水準で推移いたしました。しかし、半導体製造装置用クリーンロボット等は、半導体関連業界の設備投資抑制の影響を受け、受注量が大きく落ち込みました。

その結果、部門全体では、受注高は前期比29.9%減の387億65百万円、売上高も前期比19.8%減の414億12百万円となりました。

世界でトップシェアを占めている、当社のアーク溶接ロボットのさらなる受注拡大を狙い、「業界初」トーチケーブル内蔵形「MOTOMAN-EA1400」を発売。さらに、スポット溶接に最適な構造（艦装ケーブル内蔵形）の「MOTOMAN-ES165」も同時発売しました。



半導体製造設備で、製造ラインとウエハ処理を行うプロセス装置との間で、ウエハの受け渡しを行う局所クリーン装置「フロントエンドモジュールF3シリーズ」を開発しました。高品質・高信頼性、省設置面積であると同時に、クリーンロボットおよびリニア走行軸の業界最速の動作速度により、1時間当たり200枚の高スループットを実現できます。



当部門では、上下水道用電気計装システム等の受注が減少したものの、鉄鋼プラント用電機システムが拡大したこともあり、部門全体では、受注高は前期比3.3%増の297億34百万円となり、売上高も296億25百万円と前期比4.5%減に止めることができました。

鉄鋼関連市場において、老朽化したDCモータ駆動装置の更新需要が増加しています。当社は、安定かつ高精度な制御はもちろん、最大50%の体積低減(当社従来比)を実現した「デジタルサイリスタ変換装置VS-590」を積極的にPRし、更新計画を推進していきます。



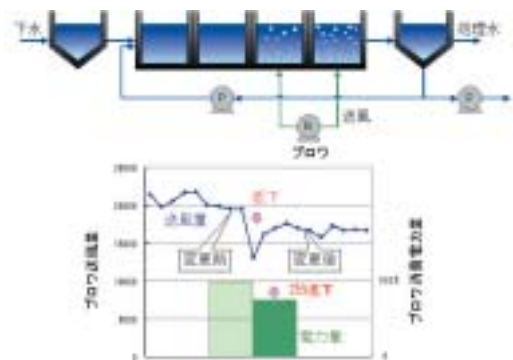
「鉄鋼新EIC統合システム」は、WindowsNTをプラットフォームとしたオープンな環境で、高炉全体の電気計装操作監視が「CP-5800」1台で行えます。2001年に3システムを納入し、稼働を開始しました。



グローバル化の時代を迎え、多様な要求にスピーディにお応えするに当たり、新製品開発のために必要な技術開発を積極的に推進しています。

下水水質シミュレータ

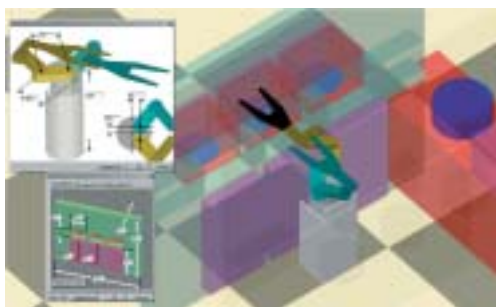
下水処理場では、反応槽の微生物活動を維持するためにブローで空気を供給しています。本シミュレータは、処理水質を維持した状態で、ブローの送風量削減を検討できるため、省エネに貢献します。



下水水質シミュレータによるブローの省エネ効果

ウエハ搬送ロボット機構シミュレータ

半導体製造プロセスなどに用いられる搬送ロボットの開発時において、完成イメージを3次元モデルで確認できるため、お客様との仕様決定が非常にスムーズになります。



ウエハ搬送ロボットの干渉チェック例

ソリューションセンタ開設

お客様の課題解決を今まで以上に速やかに、きめ細かく、グローバルに行うために、「ソリューションセンタ」を入間事業所(埼玉県入間市)内に開設しました。豊富なノウハウを持つ技術スタッフが最新のITを駆使し、技術支援することで、CS(お客様満足度)を向上し、安川電機への信頼を確固たるものにしていきます。



台湾安川開発科技股份有限公司を台北に設立

台湾市場におけるメカトロ機器のソリューション提供強化を目的として、新会社を台北に設立しました。今後は、台中、台南などにも順次拠点を配置し、ビジネス強化を図っていきます。



設立記念式典にて

MOTOMAN累積出荷台数7万台突破

1977年に日本で初めて「全電気式産業用ロボットMOTOMAN」を出荷し、2001年6月には累積出荷台数“世界一”となる7万台を突破しました(2002年3月現在76,402台)。今後も、従来からの自動車関連市場への新製品の投入、FPD製造分野向けクリーンロボットや小物部品の組立・搬送用小形ロボットなどの拡販強化を積極的に行います。



累計出荷台数7万台目のMOTOMAN

オーム技術賞を2件受賞

第49回電気科学技術奨励賞(オーム技術賞)を2件受賞しました。この賞は実用面での技術成果が重視されており、安川電機の技術力が認められたといえます。

受賞テーマ

「外乱オブザーバによる誘起電圧推定を用いた永久磁石型同期電動機センサレス速度制御」・・・これまで1万台以上の産業用ドライブに利用され、省エネルギーや生産性向上に貢献しています。

「産業用ロボットのセンサレス柔軟制御」・・・約1千台以上のロボットに適用され、ハンドリングなどの能率向上に貢献しています。



単独貸借対照表(平成14年3月20日現在)

(単位：百万円)

資産の部		負債の部	
流動資産	89,065	流動負債	84,611
現金及び預金	7,323	支払手形	3,154
受取手形	5,544	買掛金	22,354
売掛金	31,666	短期借入金	45,584
有価証券	114	未払法人税等	86
製品	16,094	未払費用	8,789
半製品	753	その他流動負債	4,641
原材料・貯蔵品	6,045	固定負債	50,494
仕掛品	4,566	社債	10,000
短期貸付金	6,254	転換社債	15,000
繰延税金資産	3,831	長期借入金	11,313
その他流動資産	6,883	退職給付引当金	14,181
貸倒引当金	13		
固定資産	76,960		
有形固定資産	28,493	負債合計	135,105
建物・構築物	10,878	資本の部	
機械装置	5,480	資本金	15,540
土地	8,835	法定準備金	17,482
建設仮勘定	767	資本準備金	14,749
その他有形固定資産	2,531	利益準備金	2,732
無形固定資産	5,419	欠損金	4,153
投資等	43,047	圧縮記帳積立金	397
投資有価証券・出資金	14,893	別途積立金	4,835
子会社株式・出資金	19,053	当期末処理損失	9,386
長期貸付金	1,112	(うち当期純損失)	(10,323)
繰延税金資産	6,615	評価差額金	2,059
その他投資	2,344	自己株式	9
貸倒引当金	971		
		資本合計	30,920
資産合計	166,026	負債及び資本合計	166,026

(注) 百万円未満は切り捨てて表示しています。

単独損益計算書

(単位：百万円)

自平成13年3月21日 至平成14年3月20日

売 上 高	113,474
営 業 費 用	122,037
営 業 損 失	8,563
営 業 外 収 益	4,122
営 業 外 費 用	1,401
経 常 損 失	5,843
特 別 利 益	4,201
特 別 損 失	15,872
税 引 前 当 期 純 損 失	17,513
法 人 税 ・ 住 民 税 及 び 事 業 税	141
法 人 税 等 調 整 額	7,332
当 期 純 損 失	10,323
前 期 繰 越 利 益	936
当 期 未 処 理 損 失	9,386

(注) 百万円未満は切り捨てて表示しています。

損失処理

(単位：百万円)

当 期 未 処 理 損 失	9,386
圧 縮 記 帳 積 立 金 取 崩 額	18
計	9,368
これをつぎのとおり処理します。	
次 期 繰 越 損 失	9,368

(注) 百万円未満は切り捨てて表示しています。

連結貸借対照表(平成14年3月20日現在)

(単位：百万円)

資産の部		負債の部	
流動資産	147,961	流動負債	130,613
現金及び預金	16,138	支払手形及び買掛金	38,837
受取手形及び売掛金	61,687	短期借入金	65,618
たな卸資産	54,340	その他流動負債	26,157
その他流動資産	16,404	固定負債	64,343
貸倒引当金	608	負債合計	194,957
固定資産	86,598	少数株主持分	
有形固定資産	42,913	少数株主持分	3,077
無形固定資産	13,072	資本の部	
投資その他の資産	30,887	資本金	15,540
貸倒引当金	275	資本準備金	14,749
		連結剰余金	2,517
		その他有価証券評価差額金	2,006
		為替換算調整勘定	1,720
		自己株式	9
		資本合計	36,525
資産合計	234,559	負債、少数株主持分及び資本合計	234,559

(注) 百万円未満は切り捨てて表示しています。

連結損益計算書

(単位：百万円)

自平成13年3月21日 至平成14年3月20日	
売上高	222,707
営業費用	226,434
営業損失	3,727
営業外収益	1,661
営業外費用	3,943
経常損失	6,009
特別利益	4,798
特別損失	17,686
税金等調整前当期純損失	18,896
法人税・住民税及び事業税	748
法人税等調整額	7,020
少数株主持分利益	32
当期純損失	12,657

(注) 百万円未満は切り捨てて表示しています。

取締役会長	永次	廣
取締役社長	中山	眞
取締役副社長	齊田伸雄	
専務取締役	濱田淳一	
専務取締役	利島康司	
常務取締役	浜本浩志	
常務取締役	田中健	
取締役	石川敬一	
取締役	松本健一	
取締役	羽鳥正一	
取締役	武井紘一	
取締役	鬼頭正雄	
取締役	濱田兼幸	
取締役	沢俊裕	
取締役	岩田定廣	
常任監査役(常勤)	中村功	
常任監査役(常勤)	野口宰	
監査役	木原誠一郎	
監査役	谷正明	

株式の状況(平成14年3月20日現在)

会社が発行する株式の総数	560,000 千株
発行済株式総数	232,059 千株
株主数	23,604 名
主要大株主	
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	15,418 千株
UFJ信託銀行株式会社(信託勘定A口)	11,823 千株
三菱信託銀行株式会社(信託口)	10,566 千株
株式会社第一勧業銀行	9,473 千株
明治生命保険相互会社	8,108 千株
包括信託受託者三井アセット信託銀行株式会社(委託者中央三井信託銀行株式会社)	7,970 千株
株式会社UFJ銀行	6,470 千株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(住友信託銀行再信託分・株式会社福岡銀行退職給付信託口)	6,375 千株
日本生命保険相互会社	4,657 千株
資産管理サービス信託銀行株式会社(年金信託口)	4,449 千株

商号 株式会社安川電機

英文社名 YASKAWA Electric Corporation

設立 大正4年7月16日

従業員 3,323名

主要製品 【モーションコントロール】

ACサーボモータ・制御装置、汎用インバータ、工作機械用AC主軸モータ・制御装置、リニアモータ・制御装置、DCサーボモータ・制御装置、高速モータ、小形精密モータ、複合モータ、省エネモータ・インバータ、高周波インバータ、プログラマブルコントローラ、マシンコントローラ、NCシステム、ビジョンシステム、その他

【ロボティクスオートメーション】

アーク溶接ロボット、スポット溶接ロボット、塗装ロボット、ハンドリングロボット、半導体・液晶製造装置用クリーン・真空ロボット、特殊アクチュエータ、クリーン・真空内搬送システム、ロボット応用FAシステム、医療・福祉サービスロボット、その他

【システムエンジニアリング】

鉄鋼プラント用電機システム、上下水道用電気計装システム、道路設備電源システム、環境プラント用電機システム、エレベータ制御システム、パワーメカトロシステム、港湾荷役用クレーン制御システム、紙・フィルム・液晶等可変速ドライブシステム、システム情報制御機器、中容量高圧インバータ、高圧開閉装置、コントロールセンタ、システム用制御盤、電力用配電機器、永久磁石内蔵形回転機、中大形誘導電動機、中形発電機および発電装置、その他産業用回転機、その他

事業所 本社 北九州市八幡西区黒崎城石2番1号 〒806-0004
電話(093)645-8801

東京支社 東京都港区海岸一丁目16番1号 〒105-6891
電話(03)5402-4502

名古屋支店 名古屋市中村区名駅三丁目25番9号 〒450-0002
電話(052)581-2761

大阪支店 大阪市北区堂島二丁目4番27号 〒530-0003
電話(06)6346-4500

中国支店 広島市南区西荒神町1番8号 〒732-0806
電話(082)568-8191

九州支店 福岡市中央区天神四丁目1番1号 〒810-0001
電話(092)714-5331

〔(注)平成14年4月27日から上記のとおり移転いたしました。〕

工場 八幡・小倉・行橋・入間

営業所 札幌・青森・盛岡・東北(仙台市)・郡山・新潟・長野・山梨(甲府市)・横浜・八王子・豊田・京滋(京都市)・北陸(金沢市)・神戸・四国(松山市)・岡山・広島・北九州・熊本

海外拠点 シカゴ・ロサンゼルス・デイトン・ポートランド・フリーモント(米国)・サンパウロ・ロンドン・グラスゴー・フランクフルト・ミュンヘン・トーサス(スウェーデン)・北京・上海・香港・ソウル・シンガポール・台北・クアラルンプール・バンコク・テルアビブ

株主メモ

決 算 期 3月20日
定時株主総会 6月
基 準 日 3月20日
そのほかあらかじめ公告して定める日
公告掲載新聞 日本経済新聞
上場証券取引所 東京・大阪・名古屋・福岡
名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番3号
UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱所 東京都江東区東砂七丁目10番11号 〒137-8081
(郵便物送付先) UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) 電話(03)5683-5111
同 取 次 所 UFJ信託銀行株式会社 各支店
野村證券株式会社 本店・各支店

(お知らせ) 当社は今期より決算公告に代えて、貸借対照表ならびに損益計算書を当社のホームページに掲載することとしました。
<http://www.yaskawa.co.jp/>

株式の事務手続き(届出住所・印鑑・姓名等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式買取請求書、名義書換請求書等)書類のご請求につきましては、上記名義書換代理人にてお電話ならびにインターネットにより24時間受け付けておりますので、ご利用ください。

0120-24-4479(本店証券代行部)
0120-68-4479(大阪支店証券代行部)) 通話料無料

インターネットアドレス <http://www.ufjtrustbank.co.jp/>

なお、証券保管振替制度をご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社にご照会ください。

表紙写真：安川電機は、1991年に「シリーズ」を発売以来、常にサーボ市場をリードしています。2002年3月に発売開始した「シリーズ」は、「高速・高頻度で正確な位置決め」を実現する世界最高性能のサーボであり、半導体製造装置や電子部品組立機などの用途においてシェアアップを狙います。今後も工作機械用、ロボット用に特化したタイプをラインアップする予定です。